



21 瓦片鳩

山田宗美

一点

明治三十八年（一九〇五）

鉄、鍛造

二二・〇×二五・〇×三〇・〇

割れた鬼瓦の上に留まる鳩の姿を鉄板から打ち出して鋳成りした作品。一見すると鑄造作品のような立体感、充実感があるが、持ち上げてみると驚くほど軽い。ひっくり返して底を見てみると、楕円形の空洞が現れ内部が中空であることがわかる。この成形法は、作者の山田宗美（一八七一〜一九二六）が「鉄打出」と呼び、明治二十四年（一八九二）に宗美が二十歳のときに発明した技法である。

鋳起による金属成形は、それまでは主に銅のものが多く、鉄を用いる場合は鎧の胴や兜の面類など成形が容易な形状のものであった。鉄打出では、熱した鉄を金槌で打ち延ばして全体の形状を作っていくが、熔接を一切行わず、箇所によっては極限まで薄く延ばされるため、金槌を打つ微妙な力加減を誤って鉄板が割れてしまうこともある（本作品も表面にヒビが入っている箇所がある）。雛形は彫塑家に依頼したというが、それを鋳起の技術によってこれだけ量感豊かにバランスよく仕上げることは至難の業であっただろう。四十六歳での早世、小柄で弱々しい体格であったという逸話から、金工という素材から連想されるイメージとは対照的な作者の繊細な資質がうかがわれる。瓦の裏面には鑿による彫銘「宗美鋳」がある。本作品の総重量は一〇八二グラム。明治三十八年に宮内省の依頼を受けて制作された。



裏面の彫銘「宗美鈍」



底面の様子。瓦の裏面の底部のみ開口している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan